

<b>オリフルア・トートリルア・ピーチフルア剤 コンフューザー N</b>	<b>取扱メーカー：</b> 協友アグリ，サンケイ*，信越化学  <b>原体メーカー：</b> 信越化学
<b>成分：</b> (Z)-8- ドデセニル＝アセタート .....36.2 % (Z)-11- テトラデセニル＝アセタート .....23.9 % (Z)-9- テトラデセニル＝アセタート .....4.8 % 10- メチル-ドデシル＝アセタート .....0.64 % (Z)-9- ドデセニル＝アセタート .....1.2 % 11- ドデセニル＝アセタート .....0.65 % (Z)-11- テトラデセン-1-オール .....0.28 % (Z)-13- イコセン-10-オン .....21.3 %	<b>性状：</b> 淡黄色澄明油状液体（ポリエチレンチューブ封入）  <b>毒性：</b> 普通物 <b>消防法：</b> 第4類・第3石油類（非水溶性）・危険等級Ⅲ

## 【品目特性】 .....

- 性フェロモンの特異的作用によって対象害虫の交尾を連続的に阻害し，害虫の発生を抑制する。
- 感受性が低下した害虫にも有効。
- ハマキムシ類の成分をできるだけ天然組成に近づけたことにより効果が安定している。
- 天敵に対する影響は非常に少なく，人畜毒性もほとんどない。
- 有効成分は微生物等により容易に分解されるため，環境にやさしい。
- ディスペンサーがツインタイプのため，枝などに簡単に巻き付けられる。
- 殺虫剤の散布回数の削減が期待できる。
- 作物への残留も心配なく，作業者に対しても安全。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

## 【使用上のポイント】 .....

- 設置時期：越冬世代成虫発生初期に設置する。
- 処理量：通常の場合，本剤を10 a 当たり150～200本とし，圃場の立地条件（傾斜），周囲の状況や風向きを考慮に入れて，8割程度を圃場全体にほぼ均等に設置する。残りの2割程度を圃場の周辺部に処理すると効果的である。
- 処理位置：目通りの高さ（約150cm程度）に，なるべく圃場全体に均等になるように取り付ける。但し，周辺部には高い位置に設置する。また，樹高が不均一の場合もなるべく高い位置に設置する。
- 残効期間：害虫の種類，圃場面積，地形，気温，風等の条件により異なるが，試験事例から4～5カ月の残効が期待できる。

- 放任園・庭木対策：圃場周辺に無防除園や無防除樹があるか注意する。ある場合はあらかじめ防除を徹底する。また，周辺に無防除のばら科果樹などがある場合は，フェロモン剤を設置する。
- 対象害虫の交尾を阻害し，幼虫の発生密度低下を目的とした交尾攪乱剤であるので，成虫の発生初期からできるだけ大面積で一斉に使用する。

## 【薬効・薬害等の注意】 .....

- 急傾斜地，風の強い地域等本剤の濃度を維持するのが困難な地域では，効果が安定しないので設置は見合わせる。
- 本剤を150本未満で使用する場合，ナシヒメシンクイ以外の対象害虫に十分な交尾阻害効果を持たないので注意する。なおナシヒメシンクイを対象に150本未満で使用する場合，交尾阻害による密度低下を維持するため，ナシヒメシンクイに対する交尾阻害効果のあるフェロモン剤と組み合わせ使用する。
- 本剤は飛来した既交尾雌には効果がないので，特にスモモヒメシンクイを対象とする場合には寄生樹種を移動する場合もあるため，発生源を確認すること。
- 誘引剤（SEルーア）とは異なるので，誘引や発生予察を目的としては使用できない。
- 外装のアルミ箔袋を開封したまま放置すると，有効成分が揮散するので，密封したまま冷暗所（5℃以下）に保管し，使用直前に開封して使いきる。
- 共通注意事項8．適用作物群に関する注意事項を参照。

## 【安全対策上の注意】 .....

- 製剤を直接ふれた手で収穫物を触ると臭いが移るおそれがあるので手を洗う。

●皮膚に対して刺激性があるので、皮膚に付着しないよう注意する。付着した場合には、直ちに石けんでよく洗い落とす。

【適用と使用法】 .....

作物名	使用目的	適用害虫名	10 a 当り 使用量	使用時期	使用方法
果樹類	交尾阻害	ナシヒメシンクイ	50～200 本 (52 g /200 本製剤)	成虫発生初期から終期	デイスペンサーを対象作物の枝に巻き付け、又は挟み込み設置する。
		モモシンクイガ チャハマキ チャノコカクモンハマキ リンゴコカクモンハマキ リンゴモンハマキ	150～200 本 (52 g /200 本製剤)		
すもも		スモモヒメシンクイ	200 本 (52 g /200 本製剤)		